

卒業生答辞

少しずつ春の気配を感じ始めた今日。私たち 78 回生は卒業の日を迎えました。校長先生をはじめ、日頃よりご指導くださった先生方、そしてこれまで私たちを支えてくださった保護者の皆様、並びに本日ご臨席くださいました皆様に、卒業生一同心より感謝申し上げます。

思えば 3 年前の春、緊張した気持ちで入学式に臨んだ私たちは、お互いの名前もよく知らないまま、新しい学校生活をスタートさせました。4 月の野外活動では、但馬ドームいっばいに響き渡る号令と掛け声、そして一糸乱れぬ集団行動を経験し、厳しさを身をもって実感しました。しかし、出会って間もないクラスメイトとバーベキューを囲み、夜遅くまで語り合う中で、少しずつ緊張がほぐれ、仲間としての絆が生まれていきました。

1 年の中で最も姫路工業らしい熱気と活力に溢れた体育大会。1 年生の時は初めて体験する迫力に圧倒されましたが、先輩方の姿を真似て応援するうちに、団結力を感じるようになりました。6 月の焼け付くような暑さの中、1 年生では集団行動に、2 年生、3 年生では学年演技であるダンスに取り組み、グラウンドに砂にまみれながら何度も練習を重ねました。声が枯れるまで応援し、後輩を牽引しながら演技や競技に打ち込んだ時間は、私たちの結束をより強いものにしてくれたと思います。

数ある行事の中で、最も長い時間をかけて向き合ったのが姫工祭でした。本番が近づくにつれて、放課後の暗くなった校舎にポツポツと点在する教室の明かりを見て、不思議な高揚感に胸が躍ったのを今でも鮮明に覚えています。ステージ発表ではリハーサルが思うように進まず、不安な場面もありましたが、本番ではどの団体も練習以上の力を発揮して会場を大いに盛り上げていました。姫工祭は、表舞台に立つ人も支える人も含め全員が主役であり、同時に裏方でもある行事でした。生徒や来場された方々の楽しそうな表情を目にした時、やり遂げた達成感が強くありました。

2 年生で行われたインターンシップでは、実際に仕事を体験する中で、ものづくりが社会とどのようにつながっているのかを学びました。特に企業の方の、ものづくりの仕事は製品が完成した瞬間に終わるのではなく、使われ続ける限り社会の一部として残り続けるという言葉は、働くことへの意識を大きく変えるきっかけとなりました。また、働くことの大変さと同時に、それを毎日続けている家族への感謝を改めて感じました。

3 泊 4 日の北海道の修学旅行では、身を切るような寒さの中で、姫路とは全く異なる日常を味わいました。スキー合宿で止まり方が分からず、悲鳴を上げながらコースライドへと突っ込んでいった友人を見て、大きな声で笑い合ったことも、今では忘れられない思い出です。クラス別研修や最終日の自由行動を含め、あっという間に過ぎていった 4 日間は、私たちにとって最後の修学旅行でもあり、楽しそうなのに少し寂しさを感じた瞬間もありました。

姫路工業高校では、運動部、文化部を問わず、多くの生徒が部活動に真剣に向き合っていました。学業と両立しながらも夜遅くまで練習に励む姿を見た時、そのひたむきな姿勢と

熱意に驚かされました。思うように結果が出て、厳しさに心が折れそうになったこともありましたが、そうした経験の1つ1つが私たちを少しずつ成長させてくれたのだと思います。

3年生になってからは、それぞれが異なる進路を意識し始め、残された時間の重みを感じるようになりました。将来への期待と同時に不安も大きく、進路について悩むことも多くありました。そんな時、先生方は私達1人1人の話に丁寧に耳を傾け、親身になって相談にのって下さいました。夏休みには履歴書作成の指導を、試験の前には面接などの対策にも時間を惜しまず向き合ってくださいました。その存在が、進路に悩む私たちにとってどれほど心強かったか。言葉では言い尽くせないことに感謝の気持ちでいっぱいです。また、共に過ごした友人の存在も、私たちにとってはかけがえのないものでした。気持ちが落ち込んだ時に励まし合ったり、何気ないことで笑い合ったり、時には喧嘩をしたこともありました。

そうした1つ1つの時間は今では大切な思い出であり、卒業に際して喜びを覚える一方で、そんな友人たちとの別れに寂しさを感じずにはいられません。そして、共に学校生活を送り、同じ学び屋で時間を重ねてきた後輩の皆さんの存在も、私たちにとって大きな励みであり、学校生活をさらに豊かなものにしてくれました。この歴史ある姫路工業の良き伝統を引き継ぎ、次の世代へと繋いでくれることを陰ながら応援しています。皆さんのこれからの人生が実り多いものになることを心から願っています。

最後に、これまで1番近くで私たちを支えてくれた家族へ。朝早くからお弁当を作ってくれたり、学校や友人関係の悩みを聞いてくれたりと、言葉にせずとも不安を察してどんな時でも背中を押し付けてくれました。家族みんなの支えがあったからこそ、私たちは今日この日を迎えることができました。本当にありがとうございます。

私たち78回生は、本日をもって姫路工業高校を卒業します。

今後さらに学びを深めるもの、社会へ踏み出すもの、それぞれが新たな道へと進んでいきます。まだまだ未熟な私たちですが、これからの人生の節目において、姫路工業高校で学んだこと、共に過ごした仲間の存在を胸に刻み、自分らしく力強く歩んでいきます。

結びに、今日まで私たちを導き、支えてくださった全ての方々に改めて感謝を申し上げるとともに、姫路工業高校のさらなるご発展を祈念し、答辞とさせていただきます。